



日光市学校施設長寿命化計画  
—概要版—

令和3年3月  
日光市教育委員会事務局

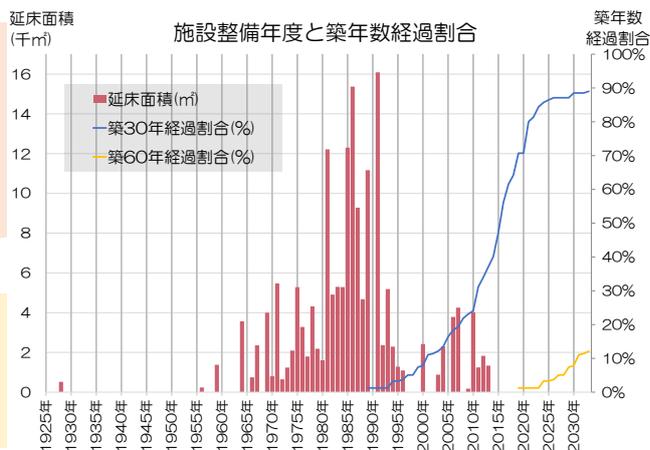
# 1. 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

## 計画の背景

### 学校施設の現状

- 学校施設は、社会環境の変化に因る形で1960年代から1990年代にかけて、集中的に整備されてきました。令和7（2025）年には、ほぼ全ての施設が築30年を経過し、築60年を経過する施設も増えはじめます。

今後、老朽化や設備の更新などが集中する時期を迎えることから、小中学校の適正配置に留意しながら、改修や改築などを計画的に進めていく必要があります。



### 学校をとりまく状況

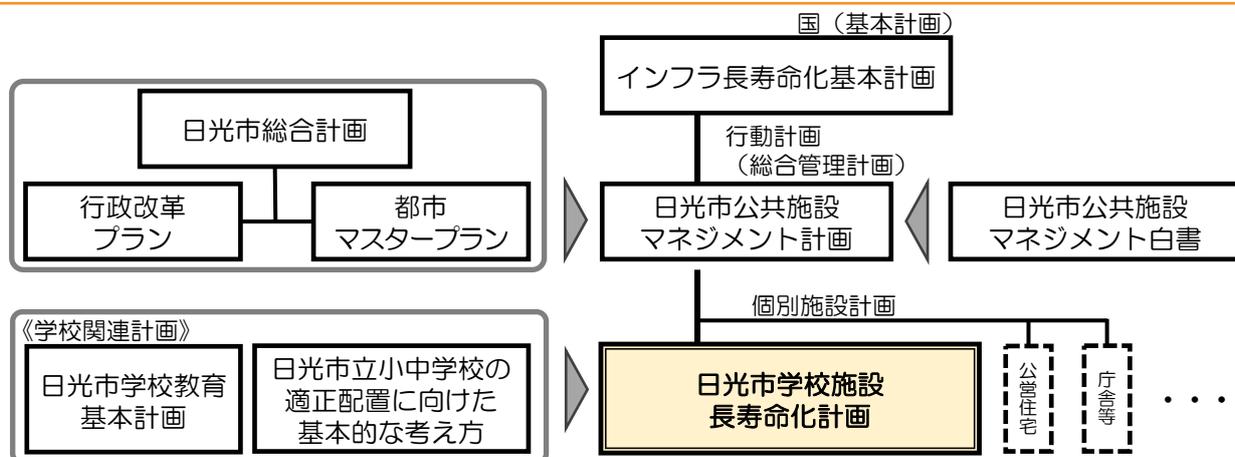
- わが国は、少子高齢化の進行、知識基盤社会への移行とグローバル化の進行、環境問題の複雑化・深刻化、雇用環境の変化など急速な社会変化に直面しています。
- 新しい学習指導要領が、令和2（2020）年度には小学校で、令和3（2021）年度には中学校で全面実施を迎えます。将来の予測が困難な時代に対応するために、自ら立てた問いを解決していく子どもたちを育てることの必要性が述べられており、学校での集団活動の中で、多様な考えに触れ、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくことが重要となります。

学校がその役割を十分発揮するためには、児童生徒数や学級数など、一定の集団規模を適正に保持し、活力ある学校づくりを進めていく必要があります。

## 計画の目的・概要

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校施設の老朽化や適正配置を総合的に捉え、改修や改築に関して実態に即した適正な中長期的見通しを行います。</li> <li>維持・更新等に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化を図り、学校施設に求められる機能・性能を確保します。</li> </ul>
計画期間	40年間（令和3（2021）年度から令和42（2060）年度）
対象施設	学校施設34校（小学校19校、中学校10校、小中学校5校）

## 計画の位置づけ



本計画は、公共施設の有効活用と改善に向けて取り組んでいくことを目的とした「日光市公共施設マネジメント計画」に基づき策定する学校施設の個別施設計画です。学校関連計画（「日光市学校教育基本計画」「日光市立小中学校の適正配置に向けた基本的な考え方」）を踏まえた計画とします。

## 2. 学校施設の目指すべき姿

### 安全・安心が確保された施設

- 学校施設は、児童生徒が学校生活を送るうえでの安全性を確保する必要があります。
- 地域防災計画においては、小中学校の体育館の多くが避難所に指定されており、安全・安心が確保された施設を目指す必要があります。
- 全ての小中学校で求められる耐震性能を確保している一方で、仕上のひび割れや剥離等の劣化が確認されています。

計画的な改修を実施するとともに、定期的な点検・調査により劣化状況を確認し、必要に応じて修繕を行いながら、劣化の進行や事故の防止に努めます。

### 誰もが快適で利用しやすい施設

- 快適で暮らしやすい生活基盤の確保に向けてバリアフリー化などの人にやさしい施設整備に努めています。
- 文部科学省の提言では、障害のある児童生徒や避難所の開設時における高齢者、障害者等の利用に支障が生じることのないよう、バリアフリー化の計画的な整備を進めることが求められており、誰もが快適に利用できる施設づくりを目指す必要があります。

今後整備予定の多機能トイレや段差解消スロープ・手すり等の設置を中心に、バリアフリー化を推進します。

### 「子ども主体の授業」を実現する空間

- 「確かな学力」の育成を目指す中、自分の考えを説明することや分析した上で解釈・考察し、説明することといった「思考力・判断力・表現力等」を育むことが重要になってきています。
- すべての子どもが主体的に学びに参加する「子ども主体の授業」を実現する施設づくりを目指す必要があります。

「〈問い〉のある課題を、学び合いながら解決する授業」を実施するため、学年、学級に縛られずに子どもたちが活動することが可能な共有スペース等を、改修や改築時に検討・計画します。

### 市の特性を踏まえた施設整備

- 豊かな自然は、かけがえのない財産です。地球規模での環境問題の解決を視野に入れ、環境への負荷の小さい低炭素社会や資源循環型社会の形成に向けて取り組んでいます。施設整備においても、環境に配慮した施設を目指しています。

本市の気候・風土にあった寒冷地仕様等の最適な施設整備や、建物の長寿命化及び省エネルギー化等の環境配慮を推進します。

### 地域における拠点としての活用

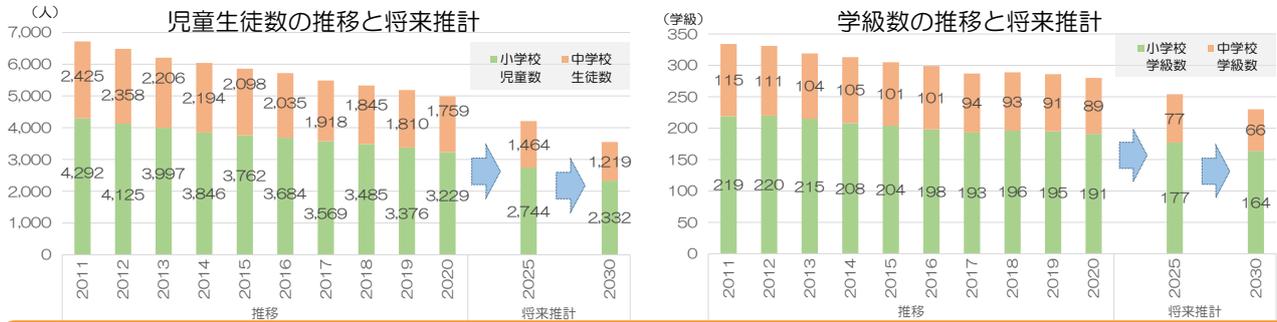
- 本市の高齢化率は、全国や県の平均を上回っており、特に過疎化が深刻となっている地域では、集落の活力維持に向けた取組が課題となっているため、地域コミュニティの維持・活性化の拠点となる施設づくりが重要です。

コミュニティの拠点施設を整備するため、余裕教室を活用した子育て関連施設等との複合化を、改修や改築時に検討・計画します。

### 3. 学校施設の実態

#### 児童生徒数及び学級数の変化

児童生徒数及び学級数ともに、全体として緩やかな減少傾向が続いています。今後も減少傾向が続くことが考えられます。



#### 学校施設の配置状況と各校の児童生徒数・学級数

本市は、全国的にみても面積が広く、今市、日光、藤原、栗山及び足尾の5つの地域があります。学校施設は、市の中心部や幹線道路となる国道沿いに多くが配置されています。

(令和2(2020)年5月1日現在)



地域	学校名	児童生徒数	学級数
今市	今市小学校	247	13
	今市第二小学校	245	11
	今市第三小学校	522	21
	南原小学校	371	16
	落合東小学校	163	8
	落合西小学校	65	7
	大桑小学校	150	9
	轟小学校	48	7
	小百小学校	17	3
	大沢小学校	186	9
	大室小学校	336	14
	猪倉小学校	131	8
	小林小学校	106	6
	今市中学校	472	17
	東原中学校	190	8
	落合中学校	164	7
	豊岡中学校	150	7
	大沢中学校	381	15
	小林中学校	43	3
	日光	日光小学校	238
清滝小学校		34	4
中宮祠小中学校			
小学校		12	3
中学校		6	2
安良沢小学校		54	8
小栗川小中学校			
小学校	13	3	
中学校	2	2	
藤原	日光中学校	29	4
	東中学校	171	8
	鬼怒川小学校	90	8
	下原小学校	151	8
栗山	藤原中学校	113	6
	三依小中学校		
	小学校	5	2
中学校	2	2	
足尾	足尾小学校	33	5
	足尾中学校	21	3
栗山	栗山小中学校		
	小学校	2	1
	中学校	4	2
	湯西川小中学校		
小学校	10	3	
中学校	11	3	
合計		4988	280

#### 学校施設の老朽化状況の実態

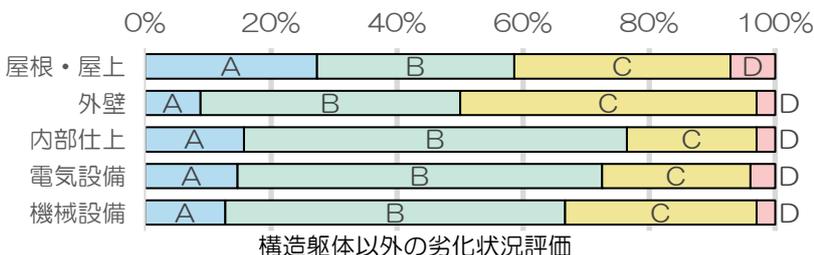
施設の老朽化状況を、構造躯体の健全性と構造躯体以外の劣化状況に分けて評価しました。

<構造躯体の健全性>

- 全ての施設で躯体の健全性が、確保されています。

<構造躯体以外の劣化状況>

- 機能面、安全面に大きな問題は見られません。
- 一方で、各部位・設備でD評価の劣化が確認された建物もあります。



## 4. 学校施設整備の基本的な方針等

### 学校施設の長寿命化計画の基本方針

「日光市公共施設マネジメント計画」に定めた、公共施設に係る基本方針と施設類型別の改善の方向性を受け、計画的な維持管理や改修により既存施設の長寿命化を図ることを、学校施設の長寿命化計画の基本方針とします。

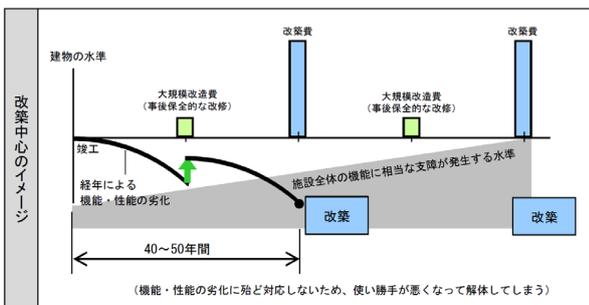
### 学校施設の規模・配置計画等の方針

「日光市立小中学校の適正配置に向けた基本的な考え方」を基本として、以下のとおりとします。

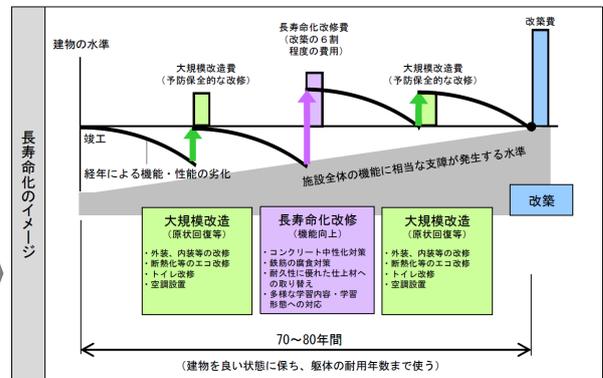
学校施設の規模の方針	現在の学校施設の規模は、小規模校や過小規模校が多くを占めているため、適正規模化のメリットと通学の負担や地域コミュニティ拠点としての役割の喪失等のデメリットを考慮し、過小規模校の解消を中心に取り組んでいきます。
学校施設の配置計画等の方針	「日光市立小中学校の適正配置に向けた基本的な考え方」に基づき、小林、日光、豊岡の3つの中学校区を優先して、適正配置を検討します。

### 改修等の基本的な方針

学校施設の長寿命化に向けた新たな改修周期を設定し、中長期に渡り計画的な改修に努めることで、学校施設の維持・更新コストの縮減を図ることを目指します。



これまでの方針：従来型（改築中心のイメージ）  
 ・改築60年目、大規模改修30年目



出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）

今後の方針：長寿命化型（長寿命化のイメージ）  
 ・新たな改修、改築周期を設定します。（下表）  
 ・改修の際には、バリアフリー化や高耐久性化等の工事も併せて実施し、目指すべき姿を実現していくことを目指します。

工事種別	実施時期の目安	概要
改築	80年	施設を解体し、同種・同規模の建物を新築します。
長寿命化改修	40年	経年劣化による物理的な不具合の回復と耐久性の向上、社会的要請の変化に対応するための機能・性能の向上を主とした工事を実施します。
大規模改造	20年/60年	経年劣化による損耗や機能低下を回復することを主とした工事を実施します。

## 5. 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

### 改修等の整備水準

長寿命化改修では、建築時の機能水準に戻すだけでなく、建物の耐久性を高めるとともに、現代の社会的要請に応じるための改修を行うことが重要です。

- ・学校施設の劣化状況や本市の環境特性を考慮し、長寿命化改修では、仕様のアップグレードにより、機能や耐久性等の性能を高めます。
- ・大規模改造や長寿命化改修に併せて、段差解消スロープ、車いす使用者トイレ等の設置を実施しバリアフリー化を推進することで、快適で誰もが使いやすい施設を目指します。

※具体的な計画の際には、整備水準を参考にするとともに、対象施設に応じた最適な仕様を検討します。

### 維持管理の項目・手法等

学校施設が常に健全な状態であるために、施設管理者と小中学校がそれぞれの役割に応じて日常的・定期的に点検し、異常の発見・把握を行い、適切な対応を実施します。

## 6. 長寿命化の実施計画

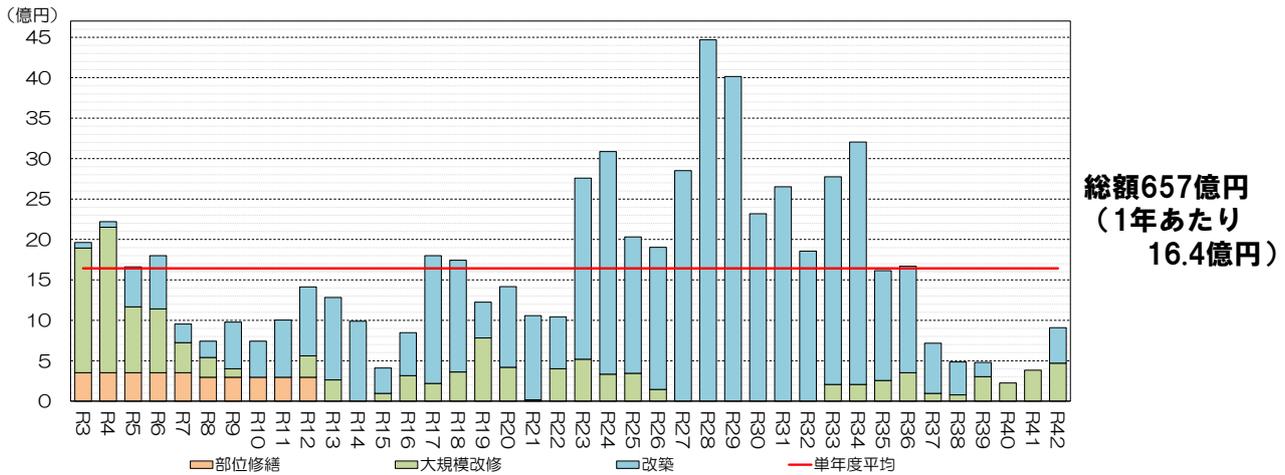
### 今後の維持・更新コスト

従来型及び長寿命化型による令和3（2021）年度から令和42（2060）年度の40年間の維持・更新コストは、下記のとおりです。長寿命化型では、令和3（2021）年度から令和12（2030）年度の10年間では、コストが増加しますが、40年間の総額では、52.8億円の縮減が期待できます。

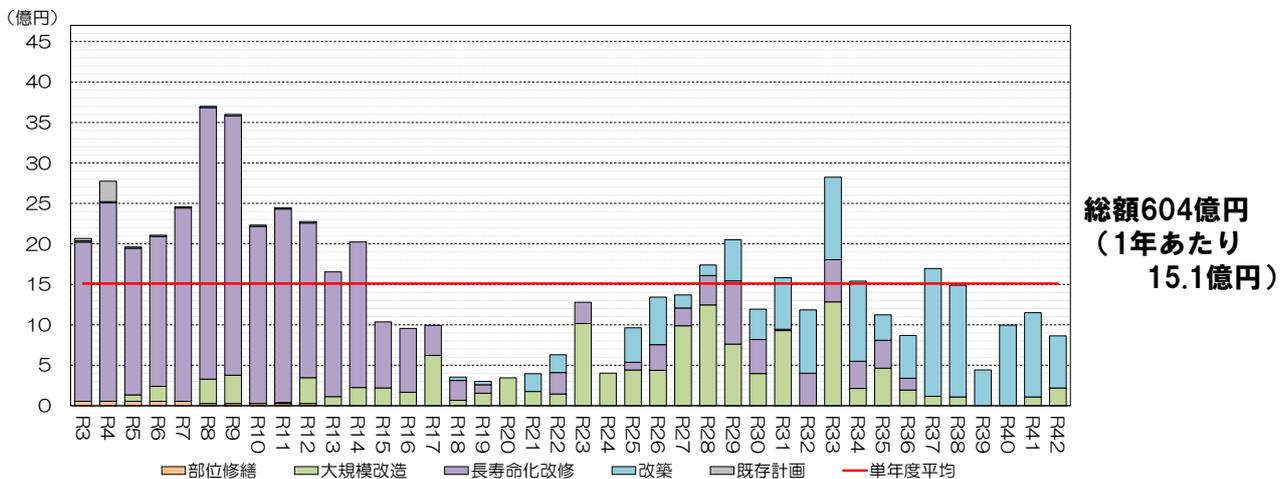
試算結果の比較 (40年間)	年平均		総額
	これまでの方針	16.4 億円/年	657 億円
	今後の方針	15.1 億円/年	604 億円

**長寿命化により  
総額52.8億円の負担が軽減  
(1年あたり1.3億円)**

#### <従来型で40年間の維持・更新コストを試算した結果>



#### <長寿命化型で40年間の維持・更新コストを試算した結果>



### 改修等の平準化順位付け

上記の試算結果では、年度毎のコストに大きな差があるため、財政負担の調整（＝平準化）を行う必要があります。

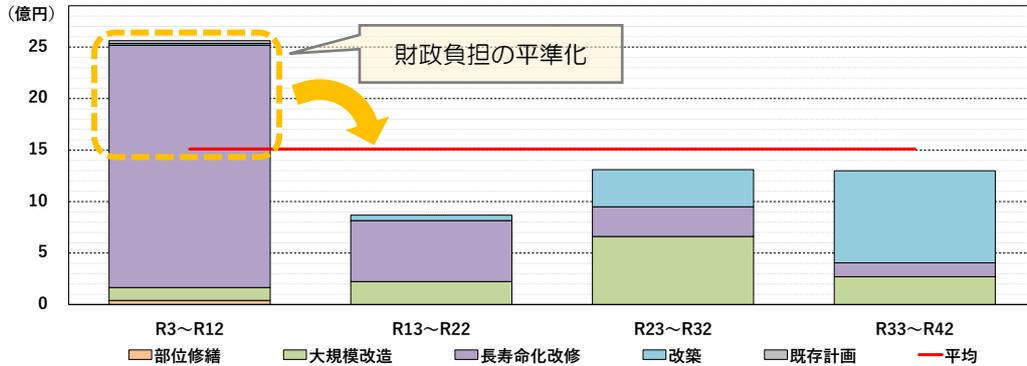
施設の状況に応じた平準化順位付けを行い、平準化を実施します。平準化順位は、劣化状況評価の健全度、築年数、避難所指定を基に設定します。



## 長寿命化のコストの見通し

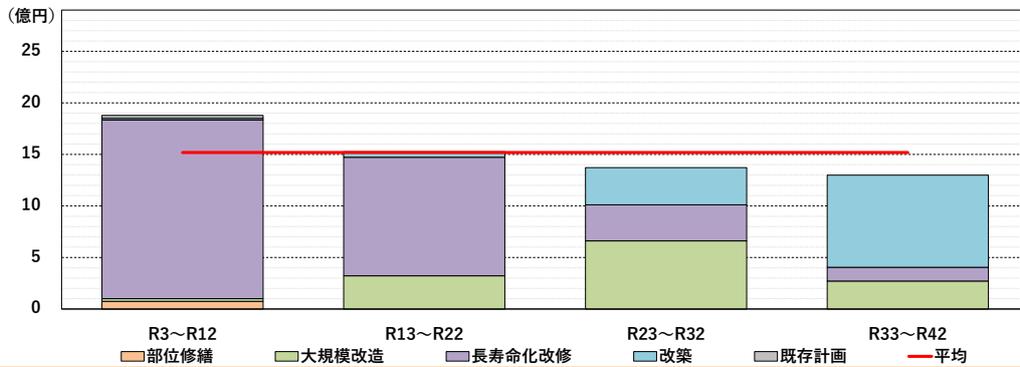
令和3（2021）年度から令和12（2030）年度の最初の10年間に計上される費用が集中しているため、平準化順位に基づいて、平準化を行います。

<今後の維持・更新コスト（長寿命化型） 10年毎の平均額>



総額604億円  
(1年あたり  
15.1億円)

<今後の維持・更新コスト（財政負担の平準化） 10年毎の平均額>



総額607億円  
(1年あたり  
15.2億円)

※ 平準化により改修を先送りした施設には、部位修繕が新たに計上されるため、総額には差異が生じます。

## 7. 長寿命化計画の継続的運用方針

### 情報基盤の整備と活用

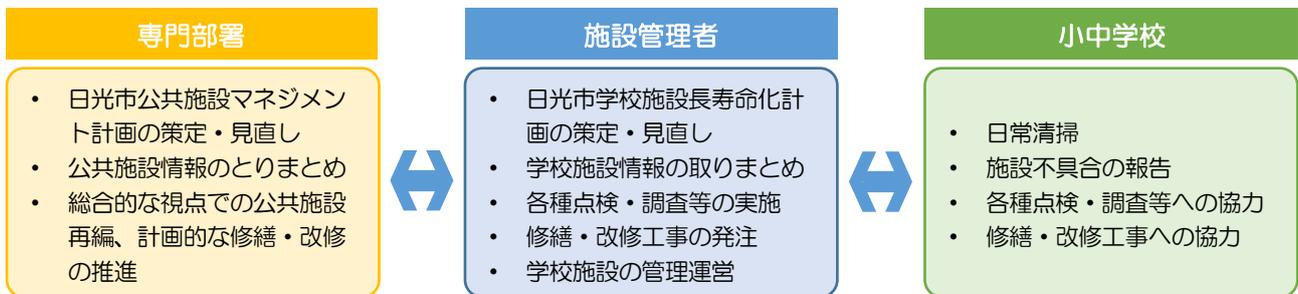
学校施設の長寿命化を目指した計画的な管理を継続的に実施するために、現在、下記の情報を一元管理する仕組みを整備しています。

- ・ 学校施設の基本情報、修繕・改修工事履歴等の情報の蓄積
- ・ 日常点検、法定点検及び各種調査の結果や学校からの各種報告

### 推進体制等の整備

学校を取り巻く環境の変化を的確に捉え、本計画を効果的に推進していくためには、施設管理者が中心となり、小中学校と連携を図ることが重要です。

総合的な視点での施設の再編や計画的な改修を進めていくために、専門部署とも連携を図り、「日光市公共施設マネジメント計画」との一体的な推進を目指します。



### フォローアップ

本計画を継続的に運用していくためには、定期的に事業の進捗状況を検証し、必要に応じて計画の見直しを図ることが必要です。見直しを行う時点での市の現状に合わせるため、データベースを中心としたPDCAサイクルで本計画を運用していきます。



## 日光市学校施設長寿命化計画—概要版—

■発行／日光市

〒321-1292 栃木県日光市今市本町1番地

<https://www.city.nikko.lg.jp/> TEL. 0288(22)1111

■編集／日光市教育委員会事務局 ■発行日／令和3年3月